

緑の相談所だより

No.125

財団法人 旭川市公園緑地協会 旭川市緑の相談所
〒078-8327 旭川市神楽岡公園内 電話 0166-65-5553

発行:平成 22 年 8 月 1 日



お知らせ

“ 緑のセンターまつり2010 ”

日時：平成 22 年 8 月 8 日(日)10 時～4 時 神楽岡公園・緑のセンター

催し物：親子もちつき大会、球根プレゼント、フラワービンゴゲーム、青空体験講習会
花と緑の相談コーナー、園芸市、ハンギングバスケットコーナー、農産物即売コーナー、
納涼ビアガーデン、よさこいソーラン演舞、神楽岡太鼓

展示：洋ラン、ミニ盆栽、山野草、石花盆景、押し花(一部の即売もあります)



講習会のご案内

「シクラメンほか冬の鉢物の室内管理」

とき 平成 22 年 9 月 5 日(日)
午後 1:30～3:30 定員 20 名
講師 緑の相談所 相談員
場所 永山中央公園



「ヒオウと春咲き球根の寄せ植え」(実習)

とき 平成 22 年 9 月 26 日(日)
午後 1:30～3:30 定員 20 名
講師 緑の相談所 相談員
教材費 600 円

展示会のご案内

「押し花展」

出展:つくしんぼ押し花サークル
8 月 8 日～31 日

「花壇コンクール写真展」

出展:花フェスタ実行委員会
9 月 1 日～16 日

「キノコ展」

出展:旭川きのこの会
9 月 17 日～20 日

展示会の初日は準備のため、ご観覧は午後からです。

4 月～10 月は第 2・第 4 月曜日が休館日です。

11 月～3 月は毎週月曜日が休館日です。(祝日の場合は翌日)

※各講習会のお申込み受付は前月の 20 日から、定員になり次第締切です。

お申込み・お問合せは



(0166) 65-5553



8月の園芸作業

1 草花・球根・鉢花類

ユリやグラジオラスは、花が終わったら早目に花がらを摘みましょう。花がら摘みのあと、球根肥大のため化成肥料を少量株元に施しましょう。

シャコバサボテンは未熟な新芽（茎節）に花芽は出来ません。8月中旬までに新芽は摘み取りましょう。観葉植物は6月に引き続き、植替え、挿し木、株分け、取り木の適期です。植替え用土は赤玉5、腐葉土3、火山礫2の混合土が一般的です。

シクラメンはお盆が過ぎたら、新しい用土に根鉢の周り3分の1程削り、一回り大きい鉢に植替えましょう。ペチュニアの伸び過ぎた枝が、見苦しい時は切り戻しをしましょう。

2 庭木・果樹類

今年はサクランボに灰星病が多発生しました。病原菌は、地表面に落果した罹病果が菌核化して越冬するほか、樹上でミイラ化した被害果でも越冬します。翌年の伝染源となる病果の処分を行いましょう。集めて地中深く埋めるか、ゴミとして処分しましょう。

ツツジ等は既に花芽ができていますので樹冠から飛び出した新梢だけを切り戻し樹形を整える程度にしましょう。

甘いブドウをつくる為には葉に太陽の光を十分当てることが必要です。枝が重ならないよう誘引し、葉の付け根から出る副梢（わき芽）は2～3枚残して切り取りましょう。

マツ類の剪定は8月中旬以降に行いましょう。

3 洋ラン類

デンドロビウム（ノビル系）は昼夜の温度差が大きくなるにつれて成長が鈍くなりそれに伴ってバルブが太ってくると、今年伸びたバルブの先端に小さな葉が1枚つきます。これを『止め葉』と呼び、この時から肥料を一切与えず水やりも控えましょう。

シンビジウムは上旬には置き肥を止め、週1回の液肥に切り替え水やりと、日光によく当てましょう。

9月の園芸作業

1 草花・球根・鉢花類

スイセン類、クロッカス、シラー等の球根は中旬から下旬に植え付けしましょう。

インパチェンス、アキランサス、コリウス、ガザニア、ニチニチソウ、ロベリア等四季咲き性の草花は、冬の間も花を楽しめます。初霜前の9月中・下旬に鉢上げして、室内で栽培します。

アザレアは開花準備時期です。肥料を止め、乾かない様に注意しましょう。

ポインセチアやハイビスカス等の耐寒性のない鉢物は9月中旬には入室しましょう。

常緑で越冬する草花には、耐寒力を付けることが大事です。草木灰・硫酸カリ等カリ肥料を9月上旬から施用しましょう。

2 庭木・果樹類

西洋シャクナゲ等、寒さに弱い花木にはカリ肥料（硫酸カリ・草木灰）を与えましょう。

生け垣、玉物等新芽が伸びて不揃いになったものは随時刈り取りましょう。

イチイ、ヒバ、マツ類の剪定は9月中に終わらせましょう。

ボタン、シャクヤクは、夏が過ぎて気温・地温が低下してくると新根が伸びてきます。株分け、植え替えは新根が伸びる9月上・中旬までに終わらしましょう。



3 洋ラン類

デンドロビウム（ノビル系）は最低気温 10℃程度なら戸外に置いて管理しましょう。ただし、朝の気温が7℃～8℃になったら入室し、暖房のない明るい窓辺で管理しましょう。（夜間 10℃、昼間 10℃が適温）

シンビジウムはバルブの充実期、最低気温 10℃程度なら戸外に置きましょう。

カトレア類のシースが出かかった株は追肥を中止し、戸外の鉢は 12℃を目処に入室しましょう。

植物の病害虫

その8 「モモシンクイガ」

リンゴ、ナシ、モモ、スモモ、ウメなどの果実を食害します。

1 被害

幼虫は果実に侵入してトンネル状に食害します。幼虫の侵入孔から汁が流れ出て、これが乾くと白色あるいは褐色の糊状になり、果実の表面に付着しています。幼虫は果実内を縦横に食害するので、果実は不整形になります。幼虫は果面に1～2mmの穴をあけて脱出します。その脱出穴から糞がでています。

2 生態

年1～2回発生します。

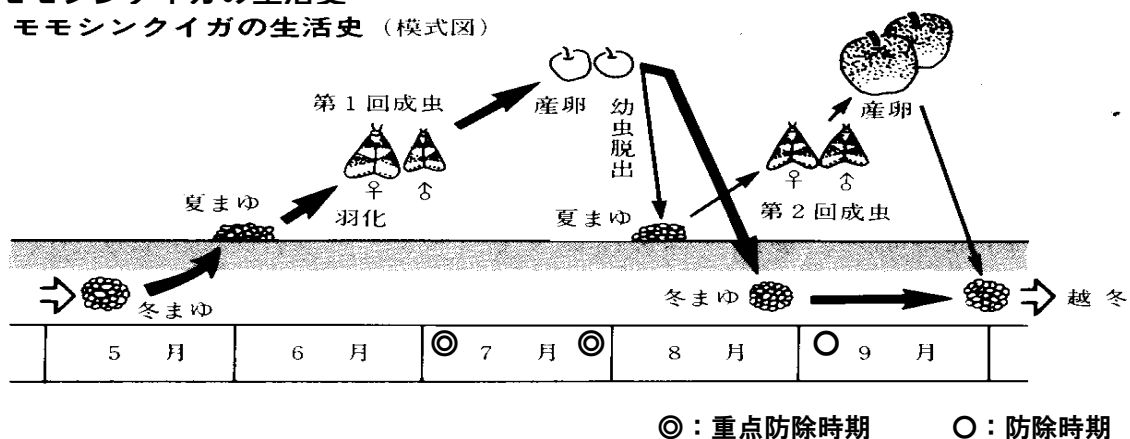
第1回の成虫は6月下旬からで、7月下旬から8月に最盛期になり、第2回の成虫は8月下旬ころ発生します。

幼虫は土中5cmくらいのところにまゆをつくって越冬します。翌春、幼虫はまゆから脱出し、地表面にまゆをつくり直してその中で蛹になり、6月下旬ころから羽化しはじめ、7月上旬ころ成虫が出現します。

卵は果実のがくや果梗などの凹んだ部分に産卵されます。孵化した幼虫は果実の表面から食入し、老熟した幼虫は8月上旬ころから果実を脱出して地上に落下しまゆをつくり越冬します。

3 モモシンクイガの生活史

モモシンクイガの生活史（模式図）



4 防除

- ① 7月上旬～8月下旬に、10日ごとに中耕を行ない、まゆを地下3cm以上の深さに埋没させ、成虫の羽化を阻止します。
- ② 袋掛けは成虫の発生前、6月下旬（遅くとも7月初めまで）に終わしましょう。
- ③ 被害果は発見次第摘み取り、一週間以上浸漬し幼虫を死滅させます。地中への埋没では効果はありません。
- ④ 産卵期の7月上旬から9月上旬までには数回にわたり殺虫剤を散布します。

いちごの定植について

いちごの定植は苗を確保して8月いっぱいに行なえば、次年度に大きな良い実を収穫出来ません。その手順のあらましを見ましょう。

1 植え替えの時期は

いちごは毎年収穫出来ますが、年々収量が落ちると共に実も小粒になります。成り方を見て2～3年で更新する必要があります。

2 苗の作り方

いちごの実が成ると共に、ランナーが多数出てきますが、図の様な位置の苗を育てます。

3 苗の形状

下の図の様に本葉が4～5枚出たものを選び植え付けます。

4 植え付け

植え床は15～20cm 上げ、幅60～70cm（2条植えの場合）図の様にランナーの短い側をうねの外側に向くように植えます。花房がうねの外側に成るので収穫しやすい。

5 植え床

いちごの根は濃度障害を起こしやすいので土壌の緩衝能力を高める必要があります。そのために植え付け3～5日前までに苦土石灰や化成配合肥料、堆肥等を全層混和を、しておくことが大切です。

（ 元肥：1㎡当り苦土石灰 100g、配合化成肥料 100g、堆肥 3～5kg ）

展示室の植物（32）

アデニウム（サバクノバラ） キョウチクトウ科アデニウム属

アフリカ原産で早春から夏にかけ美しい花を咲かせる植物で、「砂漠のバラ」と呼ばれています。

丈夫で栽培も容易ですが、寒さに弱く冬季の管理に気配りが必要です。